

オープニングイベントでの知事コメント

皆さん、こんにちは。東京都知事の小池百合子です。

このたび、CHANGEの加盟都市として東京都が名を連ねることになりました。

そして本日、CHANGEのローンチイベントが開催されますこと、大変嬉しく思います。

東京は時差の関係で、残念ながらビデオメッセージでの参加となりました。市長の皆様とお話しできないのは甚だ残念ですが、これを機にさらに友好を深めてまいりましょう。

さて、私たちリーダーが、自らの都市が抱える課題の解決に取り組み、さらに都市間の連携を図っていくことは、各都市の発展だけでなく、世界的な課題解決にも貢献するものと考えています。

私は、2016年に東京都ではじめて女性として知事に就任以来、女性のエンパワーメントに力を入れてきました。私は東京初の女性知事ですが、私が最後ではありません。この男女平等参画という大きな課題に対し、皆様と力を合わせて取り組んでまいります。

現在、COVID19との厳しい闘いが続いております。このCOVID19は、日本・東京における男女平等参画にも大きな影響を及ぼしています。例えば、COVID19により大きな打撃を受けた飲食、観光、サービス業等は、元々女性労働者の割合が高く、女性の雇用に深刻な影響が及んでいます。

また、テレワークの進展等で男性の働き方が変化したものの、依然として家事・育児の大部分を女性が担っている現状があります。さらに、生活不安やストレスによって、DV等の増加・深刻化も懸念されています。

こうした中、東京が今後も活力ある都市として発展するには、男女を問わず一人ひとりが、その個性と能力を十分に発揮できる機会が確保されていることが重要になります。

では、そのために、何をどう変えていくか。都は、昨年「未来の東京 戦略ビジョン」を策定し、その中で、男女平等の観点から目指すべき2040年代の東京の姿を描きました。

1つめは、企業や公的機関、地域、政治における女性活躍が当たり前となり、女性が自らの希望に応じた生き方を選択できるまちになっている、ということです。

2つめは、政治家や企業トップの半数が女性となるなど、女性の能力が十分に活かされる社会が実現している、ということです。

都も、政策や方針を検討する際に設置する会議における女性委員の割合を、2030年までに、現在の32%から40%以上にするという目標を掲げています。

また、管理職に占める女性の割合の向上を重要な課題と捉え、現在、都庁の管理職の20%が女性ですが、2030年までに30%まで向上させます。

3つめは、男女の就業率や賃金の差が解消され、男性の家事・育児が当然となっている、ということです。

このように、誰もが生き生きと暮らし、活躍できるダイバーシティの実現を目指していきます。

いよいよ来年は東京2020大会です。皆様が安心して来日できるよう、万全の感染症対策を施し、人類が一丸となって「見えざる敵」に打ち勝ち、その絆をさらに強めた象徴となる大会にしたいと考えています。

オリンピック・アジェンダ2020においても、男女平等参画を推進することは極めて重要です。CHANGEの理念の実現に向け、皆様と手を携えて進んでまいります。

最後に、本日のイベント開催にご尽力くださった皆様に深く感謝いたします。CHANGEの活動を通じて、都市間ネットワークの力強い可能性を世界に示していきましょう。

ありがとうございました。